

会員限定

2019年11月度  
金融システム研究会  
2019年11月6日(水)

# 「情報銀行のすべて」が示す金融の未来

**講師：花谷 昌弘**

株式会社NTTデータ 金融事業推進部 デジタル戦略推進部 部長

 金財情報システム「金融システム研究会」事務局

# CONTENTS

---

## 目次

### 「情報銀行のすべて」が示す金融の未来

Slide 2	4
情報銀行とは何か？	6
Slide 5	8
Slide 6	8
Slide 7	10
Slide 8	10
なぜ、データ活用か？	12
Slide 10 データは誰のモノ？	12
Slide 11 大きな世界観～個の影響力の拡大	14
Slide 12 PDS (パーソナルデータストア) とは	14
Slide 13 情報銀行とは	16
Slide 14 データ流通／活用における課題	16
Slide 15 現在のマーケティングの課題	18
Slide 16 企業と個人間でのデータ共有による解決策	18
Slide 17 データ流通／活用シーンに登場するプレイヤー	20
世の中の動き (欧州・中国)	20
Slide 19 世界の動き：欧州	22
Slide 20 参考：欧州での NTT データの動き	22
Slide 21 MyData 2019 参考：欧州における NTT データの最新活動状況	24
Slide 22 参考：GDPR とは	24
Slide 23 欧州での事例	26
Slide 24 中国での事例アリババが車の自動販売機業務を開始	26
世の中の動き (日本)	28
Slide 26 日本の動き：政府での検討	28

Slide 27	日本政府の取り組みスケジュール	30
Slide 28	現在の情報銀行のパターンわけ	30
Slide 29	電通「個人データ銀行」に参入・企業の販促に活用	32
Slide 30	セブン&アイ・ホールディングス セブン&アイ・データラボの発足	32
Slide 31	三菱 UFJ 信託銀行 新たなデータ管理サービス提供に向けた実証実験の開始	34
情報銀行の課題と将来		34
Slide 33	情報銀行の課題	36
Slide 34	データ提供のインセンティブ	36
Slide 35	パーソナルデータを引き出すための技術	38
Slide 36	データ活用サービス	40
MesInfos Japan		42
Slide 38	フランスでの実証実験 MesInfos	42
Slide 39	MesInfos Japan	44
新しい世界観、新しい価値観		44
Slide 41		46
Slide 42	新しい世界観	46
Slide 43	Me2X の世界観	48
Slide 44	パーソナルデータ流通とは・・・	48
Slide 45	新しい価値観	50
情報銀行の発展と最終形		52
Slide 47	情報銀行の発展	52
Slide 48	情報銀行のパラダイムシフト	52
情報銀行時代の金融機関		54
Slide 50	データを融資する	54
Slide 51	データ保有企業の強化	56
Slide 52	データ分析の強化	56
Slide 53	地域情報銀行	58

NTT データができること .....	58
Slide 外画面 1 .....	58
Slide 外画面 2 .....	58
Slide 外画面 3 .....	58
Slide 外画面 4 .....	60
Slide 外画面 5 .....	60
Slide 外画面 6 .....	62
Slide 外画面 7 .....	62
Slide 外画面 8 .....	62
Slide 外画面 9 .....	64
Slide 外画面 10 .....	66
Slide 外画面 11 .....	66
Slide 外画面 12 .....	66
Slide 外画面 13 .....	68
◆ 質疑応答 .....	70

皆さんこんにちは。

NTT データの花谷と申します。

きょうは、「情報銀行のすべて」、特に、「金融の将来」ということをご説明をしたいと思います。

お手元の資料が第1部の分になっておりまして、今現在、世の中がどう動いているのかというところ、ここ数年間の概況を記したものになります。

その後、第2部という形で、ここ数か月の動きと、そこから見える将来の動きをお話しさせていただきたいと思っております。すみません、第2部のほうはちょっと資料がお配りできないので、投影のみという形にさせていただきたいと思っております。

まず、資料のほうから進めてまいります。

## Slide 2

私自身は、実はマイナンバーというものの導入に携わっておりまして、当初は国側のマイナンバーについて検討に入っていたのですが、それが導入をされて、民間でもお使いになられる。特に、皆さんをはじめとする金融機関のお客さまがマイナンバーを一番最初に使う人たちになりましたので、この皆さんと共に、じゃマイナンバーが入ったらどんなビジネスができるだろうということ、2013年ぐらいから検討を進めておりました。

2016年から、いわゆる個人情報の流通——パーソナルデータというのですけれども、こちらのビジネスに携わってまいりました。昨年はおかげさまで内閣府のサブワーキングにも呼んでいただいて、お話をさせていただいています。




**NTT Data**  
Trusted Global Innovator

## 「情報銀行のすべて」が示す金融の未来

2019年11月6日  
株式会社NTTデータ  
金融事業推進部デジタル戦略推進部 花谷昌弘

© 2019 NTT DATA Corporation



### 自己紹介

株式会社NTTデータ  
金融事業推進部 デジタル戦略推進部 部長

## 花谷 昌弘

1996年	入社
1996年～	マレーシア政府電子調達プロジェクトなど、おもにシンガポール、マレーシアでの海外案件に従事
2004年～	国税庁営業を担当（2012年まで）
2009年～	社内の共通番号ワーキンググループ事務局として、共通番号に関する新規ビジネス創発を主導
2013年～	マイナンバービジネス創発ワーキンググループに改組して、主に民間利活用に関する新規ビジネス創発を主導
2016年～	個人情報の流通を促進するパーソナルデータビジネス、ブロックチェーンビジネスに従事し、新しいビジネスを創発するラボの立ち上げを行う
2018年	内閣府 総合科学技術・イノベーション会議 データ連携基盤サブWG 委員 MyData Global 個人会員

© 2019 NTT DATA Corporation

2

NTT Data

## 情報銀行とは何か？

まず第1部です。

きょうは金融機関の皆さんと、それに関連するシステム会社の皆さんということなので、フォーカスを金融機関においてお話をしたいと思います。

最初に「情報銀行とは何か？」ということですが、その前にまず「銀行とは何か？」というところからです。これまで皆さんがどういうふうに「銀行」というものを扱ってこられましたか、「お金」とはどういうふうに考えていましたかというところからです。

## 「情報銀行のすべて」が示す金融の未来 目次

01. 情報銀行とは何か？
02. なぜ、データ活用か？
03. 世の中の動き（欧州・中国）
04. 世の中の動き（日本）
05. 情報銀行の課題と将来
06. MesInfos Japan
07. 新しい世界観、新しい価値観
08. 情報銀行の発展と最終形まとめ
09. 情報銀行時代の金融機関
10. NTTデータが出来ること

# 情報銀行とは何か？



Slide 5

Slide 6

# 銀行とは何か？

# お金とは何か？

## Slide 7

こちらにあるように、銀行とは「産業の血であるお金を流通させることで新しい価値の創発を支援する機関」だというふうに、私自身は思っております。おそらく多くの皆さんもこういう認識で金融機関さんとお付き合いをされているかと思います。

## Slide 8

一方、情報銀行とは何かというところですが、  
「産業の知——今度はインテリジェンスですね——であるデータを流通させることで新しい価値の創発を支援する機関」。つまり、お金で価値をつくるのではなくて、データで価値をつくる場所に情報銀行というポジションがあるとご理解いただきたいと思います。

国は若干違う定義をしていますけれども、ここではこういう位置付けで情報銀行について語らせていただきたいと思います。

銀行とは、  
**「産業の血であるお金」**  
を流通させることで、  
**新しい価値の創発を支援**  
する機関

情報銀行とは  
**「産業の知であるデータ」**  
を流通させることで、  
**新しい価値の創発を支援**  
する機関

## なぜ、データ活用か？

まず最初に、「なぜデータの活用なのか」というところからです。

### Slide 10 データは誰のモノ？

(一部投影のみ)これが私のレントゲン写真です。

2016年ごろに、娘の学校のお父さんのソフトボール大会でライトからボールを投げたときにこの状態になりました。ちょうどボールを投げた瞬間、ここで、バキッという音がして折れる。ひねったような形で、骨片が出るぐらい骨折をしました。これはお医者さんに聞くと「投球骨折」という名前があるそうで、通常だと大リーガーぐらいしかならないという病気をやらせていただきました(笑)。

そうすると、当然、大学病院に救急車で運ばれてレントゲンを撮ります。無事、中にパイプを入れてつなげて、手術が終わりました。そうすると、ずっと大学病院にいるわけにいけないので、地元の病院に移ってリハビリをします。

ご存じかもしれませんが、今、医療情報の流通というのは、一応国がそういう設備を用意していますが、先般、日経さんか何かでもいわれてましたが、あまり活用されていません。どうなるかという、この画像をCD-ROMに落としていただいて、私が購入する。それを持って次の病院に行くという形になります。

もう答えが出ちゃっていますけれども、この画像共有に2万円かかります。これ自体は自由診療ですので、先生の言い値になります。

これを払って、私の場合はもう折れた状態の画像はここにしかないので2万円を払うしかありませんけれども、例えば、少しひねっただけとか、そういうレベルであれば、もう一回こっちで撮り直しをすればいいというふうになってしまうわけです。そうすると、個人としては1,200円、1,200円ですけれども、裏側で健保組合さんは2,800円ぐらい払っていただいているわけですから、こういうことを続けていくと、個人の負担は軽くなってもどんどん健保組合に負担が掛かる。結果的に、世の中のいわゆる社会保険費用はかさんでいく。これがなければもっと流通がスムーズにいくはずじゃないかというふうに思ったのが、私がこの情報銀行ビジネスについて着目をしたところです。